

SR600 Tsurugi 試走レポート

試走担当：片山泰輔（オダックス近畿神戸班）、
落合佑介（オダックス近畿神戸班）

コース調査の分割試走を何度か行った後、最終試走を実施。

PC1 徳島県文化の森総合公園～ PC2 大川原高原看板

ひんやりと涼しい徳島県文化の森総合公園をスタート。しばらく走ると大川原高原に向けた登坂スタート。上り続けていくといよいよ見えてくる、風力発電用の風車。青い空と白い風車のコントラストがたまらない。

PC2 大川原高原看板～PC3 檜原の棚田村案内図

PC2 からダイナミックに下る。夏場でも木陰は涼しく気持ちいい。道中、灌頂ヶ滝が見える。頭上から落ちてくる滝に圧倒される。しばらく山間の道を突き進み、棚田の村へ向かったの登坂が始まる。「府殿の棚田」を経てさらに高度を上げていくと「檜原の棚田」へ到着。

PC3 檜原の棚田村案内図～PC4 高丸山千年の森案内図

九十九折りの棚田の急斜面を下り県道へ。途中湧き水でのどを潤す。四国の山間部は湧き水が多く、このような山岳ロングライドでは実に有難い。再び高度を上げて、県道から道をそれて山道を登っていくと高丸山登山口に到着。

PC4 高丸山千年の森案内図～PC5 室戸岬山頂看板

高丸山を下山すると徳島南部の山々を見渡すことができる。実に雄大。「一休さん」の愛称で知られる酷道、国道 193 号に入って苔むした道を上っていくと霧越峠に到着しそこから一気に下って海陽町へ。ここからは室戸岬へ向けての海岸線の道。コンビニ、道の駅、レストランなどが豊富にあるのでここからは補給に困らない。荒々しい太平洋の光景が目に飛び込んでくる。ほどなくして室戸岬へ到着し、そこからしばらく上っていくと室戸岬展望台に到着。

PC5 室戸岬山頂看板～PC6 土佐三志士の像

室戸岬を後にして太平洋を横目にの平坦路 80 キロ超。明日以降の行程を考えて道を急ぐ。日没前に高知市内に到着、出発して 14 時間弱。夕食を食べてホテルにチェックインして明日に備える。おそらく多くの人は高知泊で高知名物を食して明日への英気を養えるだろう。早めに起床して高知駅前の PC6 へ。いよいよ後半戦のスタート。

PC6 土佐三志士の像～PC7 土佐柴川の里看板

夜が明ける前に高知市街を出発して、県道 16 号線を上っていく。山間の集落を抜けて工石山トンネルを通過すると棚田の村へ。関西地方ではなかなかお目にかかれないほど壮大。PC7 で写真を撮って道を急ぐ。

PC7 土佐柴川の里看板～PC8 穴内川ダム看板

棚田の村を抜けて、本山町へ。コンビニが何か所かあり、ファミリーマートで休憩。リスタートして再び棚田の村を抜けて林道を通過して穴内川ダムを周回。水の透明度が実に高い。ほどなくしてダムに到着。

PC8 穴内川ダム看板～PC9 RV パークゆとりすと看板

ダムを通過して国道 32 号線を経由して梶ヶ森スカイラインへ、いよいよ剣山系へ突入。斜度はなかなか厳しいがこれからの道のりを考えるとまだまだ序の口。大豊ゆとりすとパークへ到着し PC へ。

PC9 RV パークゆとりすと看板～PC10 梶ヶ森山頂

PC9 からしばらく急斜面をくだり、山深いところへ入り棚田を横目に見ながら道を急ぐ。アップダウンはなかなか厳しい。そしていよいよ梶ヶ森への登坂が始まる。平均斜度は 10% 以上、東六甲の登坂よりも厳しい。鬱蒼と樹木が生い茂る林道を上っていくといよいよ展望が広がっていく中をさらに上っていくが、依然斜度は厳しい。山荘やキャンプ場を通過していよいよ標高 1,399m 梶ヶ森山頂に到着。自転車を担いで三角点へ上ると、見事な 360 度パノラマがなんとも壮大。(時間帯や天気次第では見事な雲海が望める!)。しばらくのんびりしていたいが、道を急ぐ。

PC10 梶ヶ森山頂～PC11 京柱峠

梶ヶ森を一気に下り、与作酷道の異名を持つ国道 439 号線へ。自動販売機でスポーツドリンクを無造作に飲み干す。そして梶ヶ森ほどではないものの再び上っていく。すでに足には疲労がたまっているので、それほど斜度があるわけではないがペースはやや鈍い。ほどなくして京柱峠に到着。ここも標高 1,100m 越えているので展望が広がる。

PC11 京柱峠～PC12 祖谷溪小便小僧～PC13 阿波加茂駅

京柱峠を一気に下って祖谷溪に入る。溪谷美を眺めながら平坦路を突き進む。多少のアップダウンはあれど少し安心する。かずら橋や祖谷の町を通過して PC12 祖谷溪小便小僧に到着。そしてここからは緩いくだり基調。国道 192 号線に出てコンビニで補給し PC13 に無事に到着。

PC13 阿波加茂駅～PC14 落合峠～PC15 落合峠展望所

阿波加茂駅を出ていよいよ今回の最難関区間へ。すでに足は疲労困憊なので緩い斜度でもそれほどスピードは上がりず淡々と上っていく。一旦峠を越えて松尾川ダムを通過し、最後のひと踏ん張り。森林限界を超え熊笹が生い茂る高原地帯へ。ほぼ日没のタイミングになんとか落合峠に到着。沈みゆく夕陽を見ながら写真を撮って下山。落合峠の南側の下りは道がよくないので慎重に下る。落合集落を抜けて、小径を上っていくと落合集落展望所に到着。暗闇なので全く見渡せない。(日中なら山の斜面に建てられた集落を望むことができる)

PC15 落合峠展望所～PC16 見ノ越峠

ここから斜度はそれほど厳しくないがやはり疲れているので、軽いギアをくるくる回して確実に距離を消化していく。暗闇の中、見ノ越峠に何とかたどり着く。

PC16 見ノ越峠～PC17 徳島県文化の森総合公園

PC16 をでてからの下り区間は本来であれば日中通過したかった、なぜなら眺望が最高すぎるからだ。暗闇の中コース通り下っていく。下りきってしばらく平坦路を進むと再び上りが始まる、最後の川井峠だ。それほど厳しくないはずだが疲労で足がなかなか動かない。何とか峠の最高点を越えて下り基調の道を突き進む。ゴール手前 20 キロ地点ぐらいの緩い上りをこなしてあとは一気にゴールへ。45 時間の長い旅路だったが、実に充実した二日間だった。ゴール後は徳島市街へ移動して、名物の徳島ラーメンを食してこの旅は無事に終了。